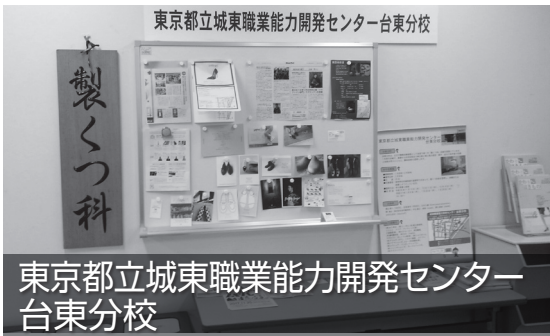


わが国の製靴業を 世界的なブランドへと 羽ばたかせたい



東京都立城東職業能力開発センター 台東分校

設置・運営 ● 東京都
所在地 ● 東京都台東区花川戸1-14-16
訓練課程 ● 能力開発訓練 製くつ科(普通課程)
能力向上訓練 短期技能講習
訓練期間 ● 製くつ科 1年訓練
短期技能講習 4日～6日



日本で唯一の「製くつ科」設置の 公共職業訓練校

東京都は、全国の革製履物製造事業所の32.6%が集積していて、さらに台東区は東京都の事業所の38.7%が所在し、地場産業となっている(平成26年経済センサスより)。

東京都立城東職業能力開発センター台東分校は、「製くつ科」を設置する全国で唯一の公共職業能力開発施設である。昭和47年7月に台東区橋場に東京都立足立高等職業訓練校台東分校として開設。平成13年4月に現在地に移転。その後、平成19年4月に現校名となる。浅草・浅草寺から徒歩2分、「浅草保健相談センター」3・4階にある同校を訪ねた。

訓練校の理念

訓練校の理念について井口憲一校長は「本校は、世界の靴づくりを東京からリードしよう」というキャッチフレーズで教育・訓練を行っています」と語る。

求職者に対しては、紳士靴と婦人靴両革靴の製造について、型紙から製甲、底付けまで一貫した製造工程の知識や技術・技能の習得訓練および修了後の就職を支援している。また、在職者には製造工程別に多様なコースの能力向上訓練(キャリアアップ講習)を行い、知識や技術・技能の向上を支援している。「この台東地域および皮革関連産業

における、人材育成確保や技能の評価等への取り組みを支援するなど、製靴業の地位の向上および振興も図っています」(井口分校長)

教育訓練の特長・取得できる資格

課長代理の鈴木恵津子氏は、「本校の1年訓練の前半は、基本技術を徹底的に学びます。具体的には、デザイン・型紙から底付けまで、製靴の基本技術・技能を実際に何十足も製作することに習得します。

また後半は、各種応用デザインの型紙、製甲の技術を習得し、各種靴製法による底付けの技法習得など技能の高度化ならびに、商品企画から機械生産までの一連のプロセスを実践形式により習得を目指しています」と語る。

製甲用アーム型ミシンは、生徒一人一台用意されており、かかと整形機や、つま先釣込機といった多種多様な外国産底付け機械も用意され、充実した設備環境が整っている。校外学習として、製靴関連事業所、皮革工場、展示会など、現場の見学も行っている。

浅草寺横という立地条件の良さも手伝って、入校生定員20名のところに100名を超える応募者が殺到する。

「講師陣は、本校の修了生を始め、製靴業界の一流の方々に来ていただいています。また生徒は、だいたい男女半々で目的意識が高い人ばかりなので、訓練は熱気にあふれています」(鈴木氏)。

取得できる資格は、課程修了(技能照査試験合格)により、技能士補が与えられる。

生徒の声

現在46期生で級長を務める廣瀬友和さんは「私は、繊維メーカーに勤務して営業をしていましたが、モノを一から作るという仕事にაცოგაれ、本校に入学しました」と入校の動機を語る。

現在、わが国の製靴産業は、工賃の安い東南アジア産に押され気味で、さなるブランド化が求められる。

「素晴らしい先生方の指導の元で、一緒に入校した仲間と切磋琢磨して製靴業を一から学んでいます。今後は、この訓練校で学んだことを活かして、少しでも付加価値の高い良い靴を製作して世界に向けて送り出したいです」と廣瀬さんは抱負を語った。

訓練校の使命

生徒の中には、芸術大学卒業生も在籍していて、卒業後はイタリアやフランスといった海外に活躍の場を移している者もいる。

「ヨーロッパの高級ブランドは、ほとんど靴や革製品の製造からスタートしています。ですから修了生には、海外の有名メーカーのように、ぜひとも世界で通用する日本産のブランドを確立するようにとエールを送って、送り出しています」と井口分校長は熱く語られた。